

人里をイノシシから守る

地域ぐるみで有害鳥獣対策を推進

市では、平成21年度から町会との協働による有害鳥獣の捕獲を開始し、昨年度からは鳥獣被害対策実施隊が発足するなど、有害鳥獣対策への取り組みに力を入れていきます。平成28年度の農作物被害金額は、前年比で40%減少するなど、成果が表れ始めています。

食い荒らされる農地

近年、イノシシの生息区域が急速に広がるなど、野生鳥獣による農作物への被害が多発しています。平成27年度まで有害鳥獣による被害金額は年間約4500万円に推移し、そのうちの約3分の2はイノシシによる被害です。



月出町会で深夜に出没した100kg近いイノシシ

この被害は、農村集落の過疎化や高齢化により山林の荒廃や耕作放棄地が増加していることに加え、市猟友会員の減少・高齢化などにより、被害対策の担い手不足が進んでいることが原因と考えられます。

また、平成28年度には、専門的な知見を持つ鳥獣被害対策実施隊（鳥獣被害対策サポーター）を設置。同サポーターは、わなの設置方法から町会の組織づくりまで、町会へみるみの対策を支援し、普及活動を行っています。今年度は、新たなサポーターを6人加え、計10人のサポーターが支援活動を行っています。

ヒトの力を結集

町会捕獲を実施するためには、わなの購入やそれを設置するために必要な狩猟免許の取得など、さまざま

町会への代表的な支援策

- 狩猟免許取得補助金
試験手数料・講習会受講料・更新手数料の全額を助成
- わな購入費補助金
イノシシ用箱わな（おり）を購入・制作するときに費用の2分の1を助成
- 捕獲交付金
捕獲したイノシシの頭数に応じて、捕獲交付金を交付
- 捕獲作業に関する保険の適用
- 小型獣用箱わなの貸与
ハクビシンやアライグマなどの小型獣用の箱わなを貸与
- 福増クリーンセンターへの無料持ち込み
捕獲したイノシシなどの死体を処理するときの持ち込み費用が無料

これらの支援策により

町会での捕獲従事者数は当初の17町会29人から、平成28年度には96町会228人となりました。これに比例

地域の要！イノシシ対策を行う皆さんに聞いてみました



「農家だけの問題ではなく、町会全体の問題」と語る長嶋町会長

子どもたちに怖い思いをさせたくない

磯ヶ谷町会 会長

長嶋清一さん

私たちは、平成28年3月から町会捕獲を開始しています。カボチャや落花生、サツマイモなど農作物の被害は昔からありましたが、1、2年前に、通学路にイノシシが出没し子どもが怖い思いをしたり、イノシシが民家に出没したりしたことをきっかけに、町会として対策に取り組むことになりました。活動を始めるに当たり、まずは町会内で活動の承認を得て、町会内の各班から1人ずつ委員を選出しました。その際は、しっかりとした意識を持ってもらうために、口頭ではなく選任の通知を送っています。少しずつの負担で続ける

現在23人体制でわなを6



23人が3班体制で活動

力所仕掛けていますが、これだけ多くの人が携わっていることで、毎日行く見回りなども1人当たり約3週間1回で済んでいます。これくらいの頻度が、無理なく活動を続けられるポイントだと思っています。対策を始めて、昨年度は25頭のイノシシを捕獲しました。今年度は農作物の被害が激減し、「足跡も見なくなりました」という声も上がっています。



町会からの通報により出動した猟友会のメンバー

町会捕獲が始まってから

は、イノシシの止め刺しの代行や町会捕獲が行われていない地区での駆除、銃器と猟犬による一斉駆除を行うことで、猟友会として有害鳥獣駆除に携わっています。止め刺しを行うときは、町会の方からいろいろ質問をされることが多いので、狩猟の知見を伝え、捕獲が効率的に行われるように協力しています。

町会による取り組みは、実際に被害の減少につながっており、今後も町会と連携を図って有害鳥獣の駆除に取り組んでいきたいと考えています。

猟友会として貢献できることを

市猟友会 会長

島崎悦昌さん

市猟友会は、会員の高齢化や若い人の離れれもあり、会員数は減少の一途をたどっています。一方で、イノシシの頭数は増加しており、猟友会だけでは駆除が間に合っていない



「狩猟の経験を生かして社会に貢献したい」

図1 有害鳥獣の捕獲頭数と被害金額の推移

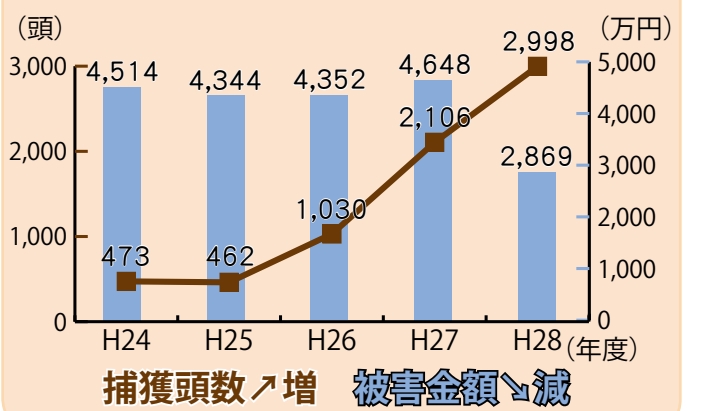


図2 総合的な被害対策の考え方



鳥獣被害対策サポーターが教える

1人1人が実践！有害鳥獣対策



鳥獣被害対策サポーター 宮田 茂夫さん

私は、これまで町会の対策は行っていましたが、周辺町会も被害に遭い始めたことから、力になりたいと思い、今年の8月にサポーターになりました。今後、活動範囲を広げ、皆さんと一緒に対策を広げたいです。

イノシシが家の近くに来ないようにするには？

まずは、家の周りに餌になる野菜くずや生ごみを置かないこと。次に、落下した柿や栗の実などをそのままにしないできちんと片付けましょう。また、生ごみは決められた日・時間に出すことを地域で徹底しましょう。

イノシシを見つけてしまったらどうすればいいの？

イノシシを発見したら、威嚇せず、静かにしましょう。イノシシは本来臆病な動物なので、人間を恐れています。

ハクビシンやアライグマの被害はどうすればいいの？

これらの有害獣は、農作物への被害だけでなく、建物の屋根裏にすみつき、ふん尿による被害を出します。イノシシと同様に、餌になる作物を放置しないことに加え、ねぐらを作させないように空き家を出さないことや、無人の寺社などは小まめに点検をすることが大事です。被害対策を検討している人は、市役所へ相談してください。

今後のモデルケースに成り得る取り組み

近年、野生鳥獣による農作物被害額は、200億円前後で推移し、1,400以上の市町村が被害防止計画を策定しています。

市原市は、猟友会員の高齢化と減少にいち早く対応し、他の市町村に先駆けて町会捕獲の体制を整えてきました。被害を農業だけに限定せず、町会対策として推進し、「捕獲」・「防護」・「環境整備」の3本柱の対策を総合的に行っているなど、評価できる点が多くあります。

他の市町村では、担当者だけによる対処療法的な対策に忙殺されていることが見られますが、市原市では、鳥獣被害対策サポーターと猟友会、市、アドバイザーがタッグを組んで、問題の根本解決のためにビジョンを持って挑んでいます。この取り組みは効果的なことから、今後、有害鳥獣の分布拡大が予想されている北陸・東北地方の市町村のモデルに成り得ます。



毎月の定例会議では、それぞれの地域の取り組みを共有



市有害獣対策アドバイザー 浅田 正彦さん
合同会社 AMAC 代表社員。日本大学・東邦大学非常勤講師。博士（農学）。農林水産省の農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーなどを務める。

町会対策を推進するためには、まず自身の町会周辺の被害状況を把握し、組織的に対応しましょう。また、対策の後には反省会を行い、楽しみながら進めることも大切です。

理想的な町会捕獲体制に向けて
町会捕獲を持続的に行うためには、町会内の理解と参加が必要です。現状では、駆除会を立ち上げ精力的に活動している町会がある一方で、狩猟免許を持っている人だけが頑張っている町会もあります。



川在町会では餌の容器を設置

効果的な捕獲体制を維持するためには、特定の数人に責任を負わせたり、農家に設置し、わなの設置だけでなく、餌の調達や補充、見回り、捕獲時の通報から処理までの作業があり、1人では大変な負担が掛かります。餌の調

町会捕獲を持続的に行うためには、町会内の理解と参加が必要です。現状では、駆除会を立ち上げ精力的に活動している町会がある一方で、狩猟免許を持っている人だけが頑張っている町会もあります。

効果的な捕獲体制を維持するためには、特定の数人に責任を負わせたり、農家に設置し、わなの設置だけでなく、餌の調達や補充、見回り、捕獲時の通報から処理までの作業があり、1人では大変な負担が掛かります。餌の調

市は、平成27年度に有害獣対策アドバイザーと「イノシシ被害対策計画」を策定しました。これまでの市民の要望に応じて実施されていた「対処療法」から、捕獲に加え、防護網の設置や維持管理などの防護、集落から有害鳥獣を遠ざける環境整備をセットにした総合的な対策への移行を目指しています（図2）。

問合先 農林業振興課
☎364187